

神の使いフクロウ

— しあわせを運ぶ神鳥 —

鷺子山上神社

宮司 長 倉 樹

「コーン」「コーン」「コーン」
不苦勞御柱をたたく音が境内
に響きます。

この御柱は、「たたく」こと
により、心の中の苦勞・悩み・
邪心をたたき出します。続いて
御柱に両手を押し当て（又は御
柱を抱きかかえ）開運幸福を願

うという御神木です。

鷺子山上神社の主祭神は天
日鷲命ともうされる鳥の神様
です。その大神様のお使い「フ
クロウ」にちなみ、不苦勞御柱
と呼ばれています。

この鷺子山上神社の「フクロ
ウ信仰」が盛んになり出したの



フクロウ

は、ほんの数年前からです。

フクロウという鳥は、古来、「
梟雄」「梟悪」等の文字に使用
されているように、日本では一
部の例外を除き、凶鳥とされて
いました。

一方、西洋では「知恵の神」
「森の哲学者」等と呼ばれ「幸
福を招く鳥」として、古来より
大切にされて来ました。

近年、我が国のフクロウに対
する負のイメージが外国との交
流が進むにつれ、大きく変わっ
て来ました。

北海道を旅された方はご存知
かと思いますが、お土産物店の
「クマ」はほとんど無くなり、
「フクロウ」があらゆる場所に
幅を利かせています。また、日
本国内のあちこちの旅先で、ちょ
とお土産物店に寄りますと、殆
どのところにフクロウ製品が置

かれています。

このフクロウに対する良いイメージを完全に定着させたのが、最近のイギリス人作家の作品「ハリーポッター」の大ヒットです。作品中のフクロウが幸せを運ぶ鳥であることが多くの日本人に知られ、フクロウに対する悪いイメージが消え、良いイメージが完全に定着しました。

このような影響か、数年前より当社でも「鳥の神様にちなんだフクロウの品物か御守がありませんか」と尋ねる方が増えて来ました。

古来よりの伝承や口伝を調査したところ、当社では古くより大切にされ、神鳥の仲間であることが確認されましたので、参拝者の希望に応え、授与所にフクロウの置物や御守を準備いたしました。

これが大変好評であり、年々フクロウ関係の授与品が増えだし、地元小砂焼の「お願いフクロウ」等がマスコミに紹介されるなどもあり、さびしかった境内に少しずつ参拝者の数が増えだしております。

これは神社をおずかる宮司と致しましては、大変ありがたく感謝するところであります。又、「信仰とは何であろうか」と考えさせられることでもあります。

鷲子山上神社は平成十九年に鎮座十二百年を迎えます。

「フクロウ」は、祭祀の信仰と祭神の神徳を広げるよう大神様が派遣した神鳥に違いないと確信し、今後とも神職・氏子・崇敬者心を一つにして、神社の護持運営に励んでゆきたいと思っております。

編集後記

「結い」ということばがある。お互いに労力を出し合っで助け合うことである。田植えは今では田植機に取って代わられて日曜仕事の孤独な作業になってしまったが、ひと昔まえまでは、隣近所・親類縁者が寄り集まったの大作業であった。自分の家が終わると、今度は隣の家の手伝いをするというわけである。このような労力交換を「結い取り」といった。これは田植え・稲刈りに限らず、山仕事でも何でも人手が必要な時には行われたのである。最近ではあるテレビ局が白川郷の大茅葺き屋根の葺き替えの様子を特集した。延べ人数五百人という大規模なものであった。

さて、この結い制度は、神社の様々な行事の運営にも、

ベースシステムとなっていると思われる。まず頭家制度である。頭家とは祭りの主催者をさす。この主催者が、年々歳々交替される。次から次へと引き継がれて祭りは執行されるというわけである。ムラの引き継ぎ制度は平等であり公平である。借りに、氏子数五十戸の鎮守さまならば五十年に一度の頭家となる。何しろ、五十年に一度の受持ちで、昔は引き継ぎ書などもなく、口伝によるのが常であったから、長老といわれる方々に教わりながらの執行となる。このようなことから、祭りの心構えひいては秩序や道徳にたいする感覚も培われてきたものと思われる。「伝え」の遵守こそ祭りの生命力の源泉と思われた。(小堀修一)

編集委員

委員長 小堀修一

委員 小野寺建富・柳田文司・増渕文男・小幡正之

板垣 彰・斉藤恵子・堀口邦夫